



東京オリンピックまでに間に合せねばならない GAP ギャップ 農業生産工程管理、HACCP ハサップ 衛生管理手法

42号発行についてのご挨拶

東京オリンピック・パラリンピックの選手が開催国である日本の食材を使った料理を食べられない！そんな事態に陥らないために！

農業生産工程管理【GAP／ギャップ】と、食品安全確保【HACCP／ハサップ】の問題について、さらにギャップとハサップが守りの政策とすれば、豊橋の産業を海外に売り込む攻めの『豊橋市版グローバル戦略』について質問しました。

他に『総合スポーツ公園の課題』について議論しました。

伊藤とくや 農業生産工程管理 GAP 問題

- 【GAP／ギャップ】とは生産者が栽培から出荷までに守るべきルール。
- 『安全な農産物の供給』『環境の保全』『働く人の安全』の三つを目的としている。
- 「農薬を使うときは使用基準を守る」「安全のために倉庫には鍵をかける」「使った機械は洗う」など第三者機関がチェックするもの。
- また国際基準の「グローバル GAP」と、わが国独自の「JGAP(ジェーギャップ)」があり、要求や考え方に違いはあるものの、食材の安全の証明として五輪組織委員会で位置付けられている。
- 問題は GAP 認証取得農家が絶対的に少ないことで、五輪では約1か月の大会期間中に約1500万食を提供するとあって、日本の食文化を発信するチャンスにもかかわらず、このままではほとんど輸入食材になりかねません。

Q 「GAP/ギャップ」の現状と課題と、今後の対応について伺う。

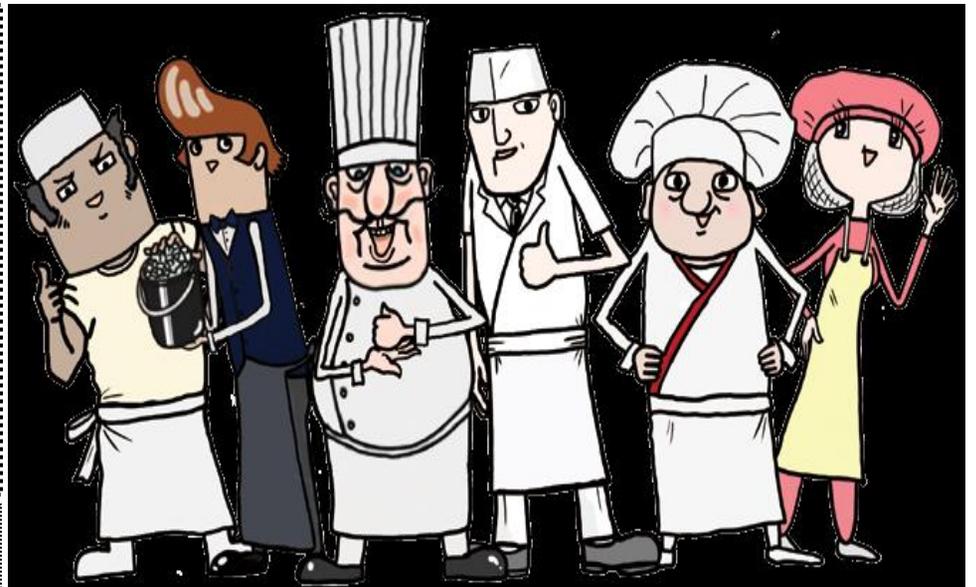
A ● GAP 手法による生産管理は、JA 豊橋、豊橋温室農協、生産者など、幾つかの経営体で実践されているものの、外部認証を取得した経営体はグローバル GAP が1件、JGAP が2件です。

● 東京オリパラ開催を、導入を広める好機と捉え、今後は愛知県や各農協をはじめ関係機関と、これまで以上に連携を密にし、啓発活動や認証取得に意欲的な方々への支援を充実させたいと考えている。

Q 国の動向を見るなかで、次世代農業者や事業継続に意欲的な事業者への支援につなげる本市の考えについて伺う。

A ● 国は国際水準 GAP の取組みや認証拡大が加速的に進展するよう、県による人材の育成・充実の取組みや指導活動の推進などを支援することとしている。

● 既にグローバル GAP 認証を取得している経営体があり、その認証取得に至る戦略や経過、生産活動における留意点、また取引上のメリットなどを具体的に提示するなど、地域に浸透させていけるような普及・啓発のあり方について、検討するとともに愛知県とも連携し、事業者の意欲がアップし、産地としての信頼向上につながる取組みとしたいと考えている。



伊藤とくや 衛生管理手法 HACCP／ハサップ問題

- 食品の安全を確保することを目的とした危害分析重要管理点【HACCP／ハサップ】は、事業者が守るべき衛生管理基準なので GAP の様に選択するものではなく、遵守するものです。
- 全ての食品関連産業、飲食業等も対象としており、先行して導入したヨーロッパ諸国では、HACCP により対面接客・対面調理というお店は無くなったと聞きます。
- 運用いかんでは日本の伝統である、立ち食い(カウンター)のお寿司屋さんや、鉄板焼き屋さんが無くなるということです。
- その様なことにならないように、本市には「ええじゃないか HACCP」を発展させ、行政と事業者がともに学ぶ場づくりを期待するものです。

Q 衛生管理手法 HACCP の現状と課題と今後の取り組みについて伺う。

- A** ● 課題は、認証を受けた本市の事業者は2社のみ状況です。
- HACCP 手法自体がよくわからない、認証制度により認証を受けるもの、専門の人員や設備投資など費用がかかるもといった誤解による消極的な状況です。
 - 国は制度化の時期をまだ示していませんが、今後、製造・加工、調理、販売等を行うすべての食品等事業者を対象として HACCP 手法による衛生管理の制度化を確実に進めることとしており、市内の事業者についても同様です。
 - 保健所では、事業者に対し食品衛生監視員による基礎講習、実践講習、相談窓口、実地指導などを行う「ええじゃないか HACCP 支援事業」を実施して、着実な取組みを支援し、導入後には「HACCP 導入確認事業」による確認済証交付はじめ、HACCP 実践力の発信を支援します。
 - 本市の食品等事業者への HACCP 手法導入を推進し制度化へ対応します。

伊藤とくや 制度化に当たっては、HACCP の12手順7原則を要件とする『A基準』、小規模事業者や飲食業・販売業など重要管理点を設けて管理する小規模事業者『B基準』というカテゴリーに分けている。

♥ 市民のために、食品等事業者が乗り遅れないよう、HACCP に対する導入支援・導入確認の2事業にて、制度化に備えてスピードと丁寧さを持って、「ええじゃないか」という結果のできる対応を求めます。

農産物加工食品等の海外販路拡大を図るグローバル戦略問題

■ グローバル戦略の目標は、豊橋の高品質な農産物や加工食品などの更なる競争力を強化し、海外販路拡大を推進するとともに、製造業やサービス業など中小企業の海外展開を支援すること、また高度な施設園芸技術の輸出などグローバルな事業展開を支援すること。

■ 主な取り組みは、「農産物海外販路開拓の推進」「加工食品海外販路開拓の推進」である。

■ 将来は GAP や HACCP もグローバル戦略とリンクすると思われる。

Q **高品質な農産物や加工食品などの競争力強化と海外販路拡大を図るためのグローバル戦略の現状とへの認識と対応について** 伺う。

A ● 農産物等の年間を通じた品揃えができるようにするため、広域連携の取り組みを強化したい。

- 品質を損なうことなく効率的に運搬する船便輸送技術を研究したい。
- 農産物等の品質の確保は、EPA など国際経済の動向により、工業製品のように今よりも厳格に求められることが予測される。
- このため農産物等の GAP や HACCP の認証制度の活用は、他の産地、産品との差別化を図るうえで有効である。

伊藤とくやのおもい

2015 年の農林水産物・食品の輸出額は 7452 億円となり、3 年連続で過去最高を記録している。(日本は輸出額国別順位 60 位)

- ♥ 農業生産額世界 10 位と比べると輸出額は小さい。
- ♥ 日本全体の農産物輸出速報値は 2020 年の目標を前倒して 2019 年には 1 兆円に達する見通し。
- ♥ 「国際認証」は輸出を増やすための『パスポート』と言われており、今後 30 年かけて国際認証を増やせば、輸出額トップテンに入れるという考えもある。
- ♥ オリパラを契機に「国際認証」が浸透する可能性は、極めて高い。
- ♥ 貿易にはルールがあり、そのルールは更新される。
- ♥ 輸出先ニーズに合わせた認証制度に成長する「ハラール」もある。
- ♥ 本市の JETRO への職員派遣が地域に果実をもたらすチャンスは見てきたが、今後は如何に伝えていけるかが課題。
- ♥ 2050 年頃には農産物グローバル GAP 取得は当たり前になると言われており、乗り遅れないよう取り組む喫緊の課題である。

■ 持続的発展する産業「農業」を支援する本市の最大の努力を期待する。



あとがき

東京オリンピック・パラリンピックで地方自治体は何をすべきか？多くの地方自治体はオリパラの機会に実施する事業として、「訪日外国人観光客の誘客」と「各国選手団の事前キャンプ誘致」を掲げている。ところが大会開催期間となる 2020 年 7 月から 9 月にかけて東京へ訪れる外国人はほぼ間違いなく減少し、しかも観光のために東京から地方都市へ足を延ばす外国人はごく僅かとの見通しがある。幸いにも豊橋市へのキャンプが決まったドイツ、リトアニアと豊橋はフレンドシップ国であり一層の絆を深めるまたとない好機、またオリパラがもたらす変化を豊橋の振興につなげてこそと思ひ質問を組立しました。



総合スポーツ公園の課題

従来からアクセスや、三遠ネオフェニックスのホームアリーナとなってからは市民利用の課題、そして東日本大震災以来は臨海部故の津波や地震による液状化の問題、空調など設備問題など諸課題も聞いている。

Q **アクセス、老朽化、利用などの諸課題への認識と対応について** 伺う。

A ● 総合スポーツ公園は市内中心部から 5 Km 程離れた郊外に位置していることから、アクセスについては車に頼ることとなり、大規模なイベント開催時には、臨時バスによる輸送が必要な状態であると認識している。

- 建設以来多くの市民に愛され非常に高い稼働率で推移しているが、建設から 30 年近く経過しており大規模修繕等の課題がある。
- 利用についての課題は、平成 28 年度から三遠ネオフェニックスがホームアリーナとしたことで以前に増して過密な状態が生じている。
- アクセスや混雑の緩和に向けて様々な方が多様な方法で訪れることができる新たな屋内施設の設置を検討する必要があると考えている。
- 総合スポーツ公園は、総合体育館やアクアリーナなどの屋内施設や少年野球場、子供サッカー場などの屋外施設だけではなく、民間の宿泊・レジャー施設等もあり、多くの方が大規模なスポーツ大会や多世代、多目的なスポーツ、レクリエーションに親しむことができる場所である。
- 総合スポーツ公園の利用者の皆さまに満足いただくため、運営にあたっては常にサービス業であるという観点をもち、利用者ニーズを把握し的確な対応を行っていくことが重要であると考えている。

伊藤とくやのおもい

- ♥ 利用に際してのニーズや、サービスの要求も変化している。
- ♥ 利用者ニーズを把握し、的確な対応を行っていくことが重要である。
- ♥ 立地条件を充分踏まえた上でその条件を変えていく、持続的発展が叶う総合的な整備方針に基づいた総合スポーツ公園の運営を期待する。😊😊

市政報告会のお知らせ

日付 平成 29 年月日()
 時間 18 時 30 分より
 会場 カリオンビル(松葉町 2 丁目)
お気軽にお越しください!



発行

伊藤とくや事務所
 豊橋市松葉町 3-68
 FAX : 0532-56-5521
 TEL : 0532-53-4556
bbito@mx1.tees.ne.jp
 携帯 : 090-3855-9696